

社会学 2 の授業評価

社会科教育・魁生由美子

1. 授業の基本情報・概要

本授業の目的は、社会学理論の基礎を学習し、近代社会の成り立ちについて理解すること、次に、近代社会が内包する積極的側面と消極的側面について、現在の社会問題とかわらせて考えることである。

本授業の到達目標は、受講生が近代化の過程で生ずるさまざまな社会変化を理解することである。また、近代社会の形成過程で生じる社会変化とは、具体的にどのような現象であったのか理解し、現代社会の諸問題と結び付けて議論することができることとして設定した。

3 回生以上を対象とする社会学 2(旧科目社会学Ⅱ)は、2 回生以上を対象とする社会学 1 を履修したのちに履修する。社会学 2 の合格者は、4 回生以上を対象とする社会学 3 の履修ができる。

2019 年度の本授業は、履修者数 15 名、旧科目社会学Ⅱ 2 名、計 17 名であった。内訳は中等教育コース社会科教育専攻 5 名、初等教育コース小学校サブコース 8 名、中等教育コース保健体育専攻 1 名、特別支援教育コース 1 名、総合人間形成課程人間社会デザインコース 2 名である。授業開始時に出席を確認し、遅刻者のチェックも厳密に行った。毎回の出席率は約 85 パーセント～70 パーセントであった。授業スケジュール中、1 コマ分で中間ふりかえりを兼ねた視聴覚教材の視聴を行った。毎回の授業は A44 枚程度に相当するレジュメを配布し、適時、参考すべき文献および視聴覚教材、web ページを紹介した。文献の貸し出しを希望する学生については、貸し出しを行い、時間外学習の促進を心掛けた。

成績評価は授業への参画を考慮しつつ期末試験の結果に重点を置いて行った。期末試験は要点の復習により、完全回答できる内容であった。成績は秀 23%、優 11%、良 29%、可 23%、不可 11%で分布していた。実質出席しなかった評価対象外学生は 2 名であった。

2. 授業評価・授業研究の内容

授業時に実施した全体の授業評価(レスポンスカードを兼ねた自由記述)の一部を以下列記する。

○学校内では国立大合格者はまさにヒーローで、私はそれにあこがれていた。高校のパンフレットには合格大学として「愛媛大学」と書いてあった。今から考えれば、私はマクドナルドかされた教育システムの「お客」になっていたのではないか。…マニュアル化された教育システムをどう利用するかそれは個人によって違うものであると考える。

○この国が「個人の自由」を掲げているのに自由になり切れない理由としては、この自由が自ら勝ち取ったものではなく、与えられたものだからだと私は思う。この国が本当の自由を勝ち取るためには、国民 1 人 1 人が自由とは何かをもう一度見直し、考え直していく必要があると私は考える。

○日本の過労死者数や過労自殺者数は高い数値を示している。最近になっても、このような案件のニュースがよく報道されている。労働の環境はさまざまであるが、労働により人命を失う世界、また差別により強制的にそのような職に就かせる世界を改善していかなければならない。

3. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

多様性を尊重する教育を推進する NPO 法人レインボープライド愛媛、四国朝鮮初中級学校等と連携する研究を行っているので、社会学 2 をはじめ担当授業において、これら団体が開催する関連行事を受講生に紹介し、随時、希望者を引率している。本年度はこれらに加えて、趙博氏(教育学修士)の一人芝居「水滴」(原作 目取真俊)の上演会(2019 年 12 月 15 日 於:福圓寺)の告知を行い、後日、上演内容の概要を紹介した。沖縄方言と標準語の比較、第二次世界大戦における沖縄戦の意味等、教育学部の学生にとって意義深い情報提供になったと考える。